

2015 年度(平成 27 年度) 事業報告書

2016 年 4 月 30 日

さいたま市中央区大戸 5 丁目 17 番 1 号
特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

代表理事 久我 祐子

電話番号 048-832-8271

1 事業の成果

学校図書支援活動事業

昨年度の対象校 40 校に新規校 2 校を加え、42 校が対象校となった。今年度は助成金取得等により、学校図書室設置などの大きめの図書環境改善が出来た。図書運営については、全体的に委員会生徒たちがリーダーシップを発揮して、各校の図書活動を定着、発展させた。

移動図書館車による巡回訪問

TAAA 図書スタッフ 2 名が各対象校を週 1 回（もしくは 2 週に 1 回）巡回訪問し、移動図書館車からの本の貸し出し、本の扱い方の指導、学校図書室での活動状況確認を行った。前年度に引き続き、対象地域内の人口移動が激しく（立ち遅れている山岳部から、開発が多少進んだ沿岸部への人口流入およびリターン）、それに伴い生徒数の変動や教師の異動が多く、また、新入生の数が多く教室不足となり、せっかく設置した図書室を閉鎖し教室にした学校もあった。このように変動が多く落ち着いた教育環境下において、定期的な移動図書館車訪問による本の貸し出しや指導は、生徒たちの読書習慣を継続するのに大変役に立った。その一方で、移動図書館による貸し出しに頼りすぎて、自校の図書活動が停滞ぎみの学校もあったため、後期は、移動図書館車からの貸し出しを控えめにし、学校図書室の蔵書の充実と利用促進に注力した。巡回訪問の際は、司書教師に自立した図書活動ができるよう指導した。

学校図書室の環境改善

生徒数が多く図書室用のスペースのない小学校 2 校には、コンテナ図書室を寄贈した。そのうちの1校は、放課後はコンテナ図書室内で地元住民の成人教育を行うなど、コミュニティーに向けた自発的な活動を開始した。スペースはあるが図書室のない 3 校（小学校 2 校、高校 1 校）には、本棚を寄贈、設置して、図書室を作った。図書室のある学校には、日本から送られてきた本を配布して蔵書を増やすことで図書環境を改善していった。

図書委員会活動の定着と発展

新規 2 校を含めて全対象校で図書委員会が設立され、生徒達による委員会活動が行われた。TAAA 図書スタッフは学校巡回訪問の際に、貸し出しノートの記帳確認や委員会メンバー生徒とのミーティング、指導を行い、図書委員会システムは着実に発展した。また、委員会生徒たちは、朝礼時に、読んだ本を紹介するなど読書推進活動も定着してきた。図書委員会に入りたい生徒が多く、図書委員会生徒たちは、熱心かつ誇らしげに活動している。当初学校図書室の意義を理解していなかったが、研修や指導を受けて、見違えるほどプロフェッショナルに成長した司書教師も出てきた。その一方で、「忙しい」ことを

理由にあまり積極的に活動しない司書教師もいたことは残念だった。教師へのサポートを継続しながら、できるだけ図書委員会生徒たちへ直接指導する形で活動の定着と発展を支援した。

読書推進イベントの成功

全体的には、図書環境の改善にともない、各校で本の貸し出しが増え、年間を通してスプリングコンテストや朗読会が行われるなど、対象校の図書促進の定着がみられた。その集大成として2月に、全対象校の図書委員会生徒と司書教師が集う「読書推進イベント」が地域ホールを借りて行われ、日頃の図書活動を発表し合った。各校による独自の図書活動の紹介は、お互いに刺激、参考になりイベントは盛会だった。研修会講師やTAAA図書スタッフが一方的に指導するだけでなく、対象校間で「学び合う」段階に入ったことを確認した。

日本国内の活動

南アの図書事業を支えるため、日本では、個人やインターナショナルスクールから英語の本を集め、毎月、分類・梱包作業をして、10,539冊の本を現送った。また、251個の算数セットを収集して送った。算数セットは、生徒達が自由に数遊びができるように、対象校の図書室に置かれた。

学校およびコミュニティー菜園支援活動事業

「対象地域が学校を拠点とした有機農業促進のモデル地域となる」ことを目標とし、2013年8月より実施したJICA草の根技術協力事業「学校を拠点とした有機農業促進のモデル地域作り」は2016年1月で終了した。終了後の対象校40校および4つの卒業生グループの自立した活動を目指して、運営システムの強化、対象者とカウンターパートとの関係構築、地域への普及に繋がる人材作りに注力して事業を行った。

学校菜園委員会の運営システム強化

全対象校で菜園委員会が設置されシステムが確立した。新年度の引き継ぎや新メンバー生徒の選出も確実にできる様になり、活動継続に向けた準備が整った。菜園担当教師を対象とした研修会では、毎回必ず帳簿や活動報告の記帳について指導をしたが、教師自身が記帳に慣れていないケースが多く習慣付けには苦労した。小学校高学年以上では、生徒に記帳させる学校も出てきて、生徒たちの学習と経験に繋がった。このように、菜園委員会の生徒は、菜園活動だけでなく、管理面にも積極的に関わるようになり、活動範囲を広げていった。

事業対象者の育成

対象校の菜園担当教師は、研修会に出席し、学んだことを生徒や他の教師に指導しながら活動を進めたため、菜園技術の知識だけでなく、指導力も身についた。TAAA農業スタッフの評価では、40校からの担当教師40名中30名は有機菜園の指導ができるレベルに達した。

第1四半期には菜園委員会生徒の有機農業の知識を確認するペーパーテストを16校（高校14校、小学校高学年2校）で行ったところ、正解率平均は最低で52%、最高で87%だった。また、第2四半期では高校9校で実地テストをした結果、生徒たちの大多数が自分たちの力で畑作りができ、他の生徒を指導できる力がついたことを確認した。

学校内の菜園活動だけでなく、農場研修への参加、農業博覧会訪問、有機農業促進イベントなどのアクティビティが貴重な経験となり、有機農業を将来の仕事として考える高校生たちも育った。

学校から家庭菜園への普及

学校菜園活動に参加している生徒に種や苗を配布して家庭菜園作りを奨励し、休暇中は TAAA 農業指導員が家庭訪問をしてサポートを行った。2016 年 1 月末までに、全対象校のうち 448 名の生徒が家庭菜園を行うようになった。また、212 名の保護者が学校菜園活動を手伝い、有機菜園技術を学んだ。

卒業生グループの活動について

4 地域の学校をベースに 4 つの地域住民グループを形成して活動を始めた。各グループはそれぞれの環境や状況に沿って、無理のない方法で進めた。そのうちの 2 つのグループは様々な理由により学校の外で活動するようになったが、結果的には地域への有機菜園普及に繋がった。地域住民に苗や収穫物を販売することで、地域へ有機農業と作物を紹介することになり、「自分たちも有機農業を学びたい」と問い合わせにくる住民も出てきた。メンバー数の増加には至らなかったが、継続して活動を行う熱意をもったメンバーが残り、今後、地域住民や生徒たちの指導者になれるほどの技術と指導力を持つメンバーも育った。JICA 事業終了後は、カウンターパートである地域 NGO の URDO が卒業生グループへの支援活動を引き継ぐことになるため、URDO メンバーには、マーケティングや自治体との関係構築等で積極的に関わってもらった。

スポーツ・課外活動振興事業

今年度は65個のサッカーボールを収集し南アに送り、現地では対象校40校に配布した。サッカー好きの少年たちは、読書に興味がなく勉強が嫌いという生徒が多いことから、本に親んでもらうために、図書支援事業において現地で書籍を購入する際、サッカー関連の本も購入して各校に配布した。日本からの視察訪問の際、対象校の教師から、片道1, 2時間かけて通学する生徒が多い中、勉強は遅れ気味だが「学校でサッカーができる」ことがモチベーションとなり、辞めずにがんばって通学し続ける生徒がいることを聞き、当事業は、ドロップアウト対策としても効果的であることを認識した。

2 事業の実施に関する事項（2015年4月1日 ～ 2016年3月31日）

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	
学校図書支援活動事業	<p>基礎教育支援のための学校図書環境改善および読書推進活動</p> <p><u>日本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●英語の本の収集、レベル・ジャンル分け、梱包、発送作業 ●算数セットの収集、梱包、発送作業 ●報告・広報活動 <p><u>南アフリカ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本から届いた英語の本を各対象校に配布。 ●図書室のない学校2校へコンテナ図書室を寄贈、設置。 ●学校図書室や学級文庫の設置、拡充、環境改善支援 ●研修会および訪問指導による司書教師の育成 ●図書委員会生徒への図書室運営指導、図書推進活動への支援。 ●移動図書館車による学校巡回訪問。本の貸し出しおよび図書の扱い方などの指導。 ●読書推進イベントの開催。 ●低学年生徒を対象とした図書室の使い方や本の扱い方の指導と本の読み聞かせ。 	月～日	日本・南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トゥットン・ウムズンベ学区	南ア側 3人 日本側 15人	小・中・高校 42校 専門学校 1校	教師 600人 生徒 19,000人	4,320
学校およびコミュニティ菜園支援活動事業	<p>学校菜園およびコミュニティ菜園における地域環境保全型農業促進指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ●菜園活動普及のための人材育成 巡回訪問による農業指導員の指導、研修会開催、有機農場での実地指導 ●継続と自立に向けての各校の菜園活動システムの強化 菜園委員会を軸にした菜園運営システムを定着させる。 生徒および教師間の引き継ぎを確実に行う。 ●学校から家庭菜園への促進 学校で菜園技術を学んだ生徒による家庭菜園作りの普及活動 ●卒業生グループの活動促進、販売ルートの開拓 ●引き継ぎに向けて、事業対象者、TAAA、カウンターパートの3者間の協力体制の強化 	月～金	南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トゥットン・ウムズンベ学区	南ア側 5人 日本側 3人	小・中・高 40校	<p><u>直接</u></p> <p>教師 40人 生徒 240人 保護者 212人 卒業生グループメンバー 22人</p> <p><u>間接</u></p> <p>教師・生徒 2,200人 地域住民 2,000人</p>	7,035

スポーツ・課外 活動振興事業	日本 サッカーボール収集、梱包、発送作業 南アフリカ サッカーボールの配布およびTAAAスタッフと生徒たちとのサッカー交流	月～ 日	南アフリカ共和国ウ グ郡ムタルメ・ト トン・ウムズンベ学区	南ア側3人 日本側3人	小・中・ 高 40 校 その他	生徒 8,000 人	133
合計							11,488